



産業建設委員会

平成28年10月18日～20日

枝豆の生産と加工

(北海道JA中札内村)

中札内村のJA中札内の枝豆の生産と加工を一貫して行う事業（第45回日本農業大賞受賞）について組合長から説明・案内を受けた。JA中札内村管内では、1983年に農家3人が、肥料や農薬が少なく済み、地域の土壌に適していることから生産を開始し、現在は90名近い農家が生産している。残留農薬検査をクリアした農場から収穫期にはフランス製の専用巨大ハーベスターで24時間刈り取りを行う。調理、加工（冷凍）まで3時間で完了し鮮度を維持しているとのこと。国の補助事業を活用した新設の加工施設では、新規採用された若い



枝豆アイスと枝豆



枝豆加工工場内

世代20人あまりが作業に従事していた。冷凍技術の活用で年間を通じて加工した枝豆を市場へ供給できる体制構築の結果、作付面積を増やしたいという農家の希望が強くなった。また、農家の後継者不足といった状況は少ないとのことであった。

この十勝地方の大規模農業と塩尻周辺の農業形態を簡単に比較することはできないが、冷凍技術の活用と加工品販売まで一貫した事業は本市でも応用が可能ではないかと思いい塩尻市内の両JAへも視察報告などを持参した。

このほかに、中札内村役場（TPPへの対応）、帯広市（十勝フードバレー）、池田町（除雪について・ワイン事業）新千歳空港雪冷熱供給システムなどについて視察を行った。

新体育館に関する特別委員会

平成28年7月12日～13日

秋葉区総合体育館

(新潟県新潟市)

敷地面積1万5千㎡、延床面積6千㎡でメインアリーナ2千100㎡・観客席545席で、ランニングコース・トレーニングコーナー等を備え、車椅子専用昇降機・車椅子観客席6席、男女別多目的トイレ等バリアフリーにも配慮している。駐車場は435台を設けており、サブアリーナの設置は無い。全国大会も可能だが観客席数がネックになっている。また、防災機能を備え地震・洪水時の避難所に指定されている。管理・運営は指定管理者制度を導入し、体力・健康づくりのプログラムが多種多様に用



体育館運営方法について学ぶ

意され、体育館の年間利用者は約10万人。建設費は21億円で合併特別債が主な財源であるとの説明を受けた。



秋葉区総合体育館を視察

参考になった点は、市民の生涯にわたるスポーツ活動や健康づくりを実現するため、多様化、高度化するニーズに対応でき、誰もが利用しやすい機能を持たせていること。

サブアリーナが無いと、大会等で選手のウォームアップでランニングコースが使用され個人開放ができないこと。空調設備はガスヒートポンプエアコンであるが、冷暖房設備の利用頻度が少ないので導入については検討が必要であること。今回の視察で見えてきた課題を充分検討し、基本設計策定に生かしたい。

このほかに、長野県障がい者福祉センターの視察を行った。